【 まちの将来像２ 】

次代の社会を担う子どもたちを育むまち

施策評価シート

1　施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する
3	対応するSDGs		1 貧困をなくそう / 2 飢餓をゼロに / 3 すべての人に健康と福祉を / 4 質の高い教育をみんなに / 16 平和と公正をすべての人に
4	施策の方向性（後期基本計画より）		次世代育成支援行動計画に基づき、すべての子ども・家庭の状況に応じた切れ目のない支援を行うことにより、子どもの健やかな育ちを保障するとともに、安心して子育てできる環境を整えます。

		部　名	補職名・課名	氏　名
5 評価者等	評価者（部長級）	こども育成部	部　長	山嵜　剛一
	施策主担当課	こども育成部	こども政策課	―
	施策関係課	子育て支援課、保育幼稚園総務課、保育幼稚園事業課、学務課、学校教育推進課		

6 施策内の取組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進
	2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援
	2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実

2　令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	A　施策の方向性に沿って順調に進行している。 B　施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C　施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D　施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

評価理由（R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	R4年度末現在の施策の主な課題	
2 子育て世代包括支援センターとして、妊娠届出のあった妊婦等に対して妊婦の心身状態や家庭状況等を把握し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る入口としての面談を全数実施しました。産前産後の生活に関した情報提供・サービスの調整等、母子保健・子育て支援における包括的な支援の提供や妊婦等との信頼関係の構築に取り組み、サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めました。子どもの健やかな育ちに向けた支援のうち、ひとり親家庭の自立支援については、より良い条件での正規雇用や安定した就業の機会確保に向けて、学び直しを希望するひとり親家庭の親子を対象に「ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業」を実施しました。また、児童虐待対応については、弁護士から専門的かつ技術的な助言、指導等を受けることで相談支援体制の強化を図るとともに、関係機関との連携を強化しました。奨学金(高等学校等入学支度金)制度については、審査方法を一部変更するとともに、中学3年生の保護者への申請案内の直接配付に加え、CSW等の関係機関にも制度周知を依頼しました。幼児教育と保育の質と量の充実に向けて、私立保育所の新設のほか、公私立幼稚園の認定こども園化などにより保育の受入体制の確保に努め、待機児童0を継続しました。「茨木市保育士・保育所支援センター」においては、積極的に保育施設への就職支援を行った結果、103名の保育士等確保につながりました。また、茨木っ子プランネクスト5.0の3年目として、最重点の取組である「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に、研修会や園長会等で情報発信を行い、共通理解と連携強化を図り、普及を進めることができました。 以上のことから、妊婦面接実施率や待機児童者数等について評価指標の目標値を達成するなど、全体としては施策の方向性に沿って順調に進行していることから、総合評価は「A」とします。	課題①	妊婦面談を通して顔が見える関係を築き、利用者の目線に立った母子保健と子育ての一体的な支援の提供ができるよう、利用者の満足度を評価することも取り入れ、さらに支援を充実させる取り組みが必要です。
	課題②	児童手当や児童扶養手当の給付について、所得制限の撤廃、対象者の拡大、支給額の改定など、国の動向を注視し、制度改正に対応する必要があります。
	課題③	要保護・要支援家庭への支援の充実を図るため、ケースに応じた効果的な支援方針を策定するとともに、関係機関と連携して、着実な支援を実施していく必要があります。
	課題④	今後もしばらくは増加が見込まれる保育需要に対応するとともに、その後の保育需要も見極める必要があります。
	課題⑤	保育士・保育所支援センターによる保育施設と保育士のマッチングや保育士奨学金返済支援事業補助金の周知・活用等により、保育士確保の目標値を達成しましたが、さらなる人材確保に向け施策検討が必要です。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する

３　施策内の取組の評価

1	取　組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名	村上　友章
3	関係課						
4	目　標 （後期基本計画より）	妊娠・出産・子育ての切れ目のないサポートの提供や必要な子育て支援サービスが有効に活用されるなど、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
a a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	子育て世代包括支援センターとして、妊娠届出のあった妊婦等に対して妊婦の心身状態や家庭状況等を把握し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る入口としての面談を全数実施しています。産前産後の生活に関した情報提供・サービスの調整等、母子保健・子育て支援における包括的な支援の提供や妊婦等との信頼関係の構築に取り組み、サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めました。引き続き切れ目のない支援に取り組む必要はあるものの、施策の方向性に沿って順調に推移していることから、「a」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
妊婦面接の実施率	%	↗	99.9	100	100

1	取　組	2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井　芳樹
3	関係課	子育て支援課、発達支援課、保育幼稚園総務課、学務課					
4	目　標 （後期基本計画より）	社会的な支援が必要な子ども・家庭をはじめとする様々な状況にある子どもが健やかに育つための環境が整っています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
a a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	ひとり親家庭の自立支援として、より良い条件での正規雇用や安定した就業の機会確保に向けて、学び直しを希望するひとり親家庭の親子を対象に「ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業」を実施しました。児童虐待対応については、弁護士から専門的かつ技術的な助言、指導等を受けることで相談支援体制の強化を図るとともに、関係機関との連携を強化しました。奨学金(高等学校等入学支度金)制度では、審査方法を一部変更するとともに、中学3年生の保護者への申請案内の直接配付に加え、CSW等の関係機関にも制度周知を依頼しました。以上のように施策方向性に沿って順調に進行しており「a」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
奨学金（高等学校等入学支度金）支給人数	人		163	161	－
相談から支援につながった割合	%	→	100	100	95（各年度）
子育て短期支援事業の利用日数	日	↗	34	58	133（R4）

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する

1	取　組	2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	保育幼稚園総務課	課長名	中路　洋平
3	関係課	保育幼稚園事業課、学校教育推進課					
4	目　標（後期基本計画より）	待機児童が解消されるとともに、保護者のニーズに応じた質の高い幼児教育・保育が総合的に提供されています。					

5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		a a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	待機児童については、私立保育所の新設のほか、公私立幼稚園の認定こども園化などにより保育の受入体制の確保に努め、待機児童0を継続しました。「茨木市保育士・保育所支援センター」においては、積極的に保育施設への就職支援を行った結果、103名の保育士等確保につながりました。また、茨木っ子プランネクスト5.0の3年目として、最重点の取組である「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象に、研修会や園長会等で情報発信を行い、共通理解と連携強化を図り、普及を進めることができました。以上のように、施策の方向性に沿って順調に推移していることから「a」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
待機児童者数（各年度4月1日時点）	人	↘	0	0	0（R4）
保育現場に送り出した保育士等の数	人	↗	98	103	60（R4）

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部　　福田　公教　准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「A」は妥当であると考える。 ・それぞれの取組のほとんどの参考指標の数値は過年度を上回っており、そうでないものも目標値を大幅に上回っており、順調な施策の展開がなされていることを表している。 ・今後は、成果に挙げられている「サービスの充実や利用者の満足度の向上に努めた」のみならず、サービスの充実や利用者満足度を指標化するなどして、客観的な評価が行なわれる方策も考えられたい。

施策評価シート

1　施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-2	地域ぐるみの子育てを推進する
3	対応するSDGs		
4	施策の方向性（後期基本計画より）	地域の様々な人材が連携・協力し、子育てを支援することで、親子ばかりではなく世代を超えた人たちの交流の場が充実するなど、「子育てでつながる地域社会」の実現をめざします。	

		部　名	補職名・課名	氏　名
5 評価者等	評価者（部長級）	こども育成部	部　長	山嵜　剛一
	施策主担当課	こども育成部	子育て支援課	―
	施策関係課	保育幼稚園総務課		

6 施策内の取組	2-2-1	交流の場の充実
	2-2-2	子育て支援の輪づくり
	2-2-3	地域の人材を活用した子育て支援

2　令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A　施策の方向性に沿って順調に進行している。 B　施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C　施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D　施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2 評価理由（R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	R4年度末現在の施策の主な課題	
子育て支援総合センターやつどいの広場では、Withコロナの新しい生活様式に対応し、オンラインを活用した活動やおもちゃ・絵本の貸出などを行うとともに、新型コロナウイルス感染症の感染状況に注視しつつ、Afterコロナに対応した対面での交流や相談の機会も徐々に広がりつつあります。 子育て中の親子が交流できる場の創出に向け、市立幼稚園、認定こども園、保育所では、地域開放や相談、子育て講座等の情報提供を行いました。保育所では、乳児向けには離乳食の進め方や2・3歳児には同世代との関わりが持てるような遊びの工夫を行いました。また、Withコロナの新しい生活様式を取り入れた活動の他、ZOOMによる子育て相談や離乳食の講習会を開催する等、ICT機器等を活用した取組を行いました。 子育て支援の輪づくりに向けて、子育て支援団体連絡会において、昨年度と同様にそれぞれの集約した情報や確認事項を記載した通信を全地区に発行するとともに、今年度はオンラインでブロックごとに会議を開催し、コロナ禍の状況に対応しながら、地域の情報交換や交流を行うことができました。 地域の人材を活用した子育て支援に向けて、ファミリー・サポート・センター事業においては、コロナ禍での活動を支援するため援助会員に消毒用アルコールやマスク等を配布しました。活動件数は昨年度相当であるものの実活動者数は昨年度より増加しており、依頼会員が10%増、援助会員が30%増となりました。また、登録説明会の時間短縮化・オンライン化など、利用者の負担軽減を図ったことにより入会希望者がコロナ前の水準に回復し、説明登録会への参加者が増加しています。 以上のように概ね順調に進行しているものの、ICT機器やSNSを活用した情報発信や、子育て講座、相談の充実、ファミリー・サポートセンターの援助会員の登録数増加などの取組を強化する必要があることから、「B」評価とします。	課題①	コロナ禍のため交流・情報交換の機会が減少してきていましたが、行動制限等の緩和に伴い、参加者数の制限の見直しや、ICTを活用するなど、より多くの情報提供や相談の機会をつくるよう努める必要があります。
	課題②	関係団体等も含め子育て情報を、SNSを積極的に利用し、情報発信を強化する必要があります。
	課題③	地域で子育てに関わる人材の活用機会が増えるよう、子育て支援に関心の高い市民への周知の必要があります。
	課題④	
	課題⑤	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-2	地域ぐるみの子育てを推進する

３　施策内の取組の評価

1	取　組	2-2-1	交流の場の充実				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名	村上　友章
3	関係課	保育幼稚園総務課					
4	目　標 （後期基本計画より）	子育て中の親子が気軽に交流できる場が地域の中に充実しています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	市立幼稚園、認定こども園、保育所、地域子育て支援拠点では、地域開放や相談、子育て講座等の情報提供を行い、就学前の親子への支援の充実につながりました。保育所では、乳児向けには離乳食の進め方や2・3歳児には同世代との関わりが持てるような遊びの工夫を行いました。また、Withコロナの新しい生活様式を取り入れた活動の他、ZOOMによる子育て相談や離乳食の講習会を開催する等、ICT機器等を活用した取組を行いました。以上のように概ね順調に推移しているものの、令和4年度は感染症拡大防止を目的に予約制とし、参加者数の利用制限をしたことで目標値と乖離があるため、「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
地域子育て支援拠点の利用者数	人	↗	50,590	78,576	126,731

1	取　組	2-2-2	子育て支援の輪づくり				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名	村上　友章
3	関係課						
4	目　標 （後期基本計画より）	地域に根差した子育て支援の輪をつくり、それぞれが互いに支え合いながら、特色をいかした活動が展開されています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	子育て支援団体連絡会については、昨年度と同様にそれぞれの集約した情報や確認事項を記載した通信を全地区に発行するとともに、今年度はオンラインで会議を開催するなどして、地域の情報交換や交流を行い、地域での子育て支援の輪づくりを図ることを通じて、コロナ禍の状況に対応することができました。 以上のように概ね順調に進行しているものの、今後は対面での交流の機会の創出も図るとともに、SNS等を活用した多様な情報発信する必要があることから、「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
子育て支援団体連絡会の年間実施回数	回	→	0	10	30
出前版お楽しみ広場	人	→	528	1,668	2,000

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-2	地域ぐるみの子育てを推進する

1	取　組	2-2-3	地域の人材を活用した子育て支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名	村上　友章
3	関係課						
4	目　標 （後期基本計画より）	地域の人材が様々な形で活用され、地域住民の経験・知識・技術等をいかした活動が展開されています。					

5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	コロナ禍での活動を支援するため、援助会員に消毒用アルコールやマスク等を配布しました。活動件数は昨年度相当であるものの、実活動者数は昨年度より増加しており、依頼会員が10％増、援助会員が30％増となりました。また、登録説明会の時間短縮化・オンライン化など、利用者の負担軽減を図ったことにより、入会希望者がコロナ前の水準に回復し、登録説明会の参加者が増加しています。 以上のように概ね順調に進行しているものの、援助会員の登録数を増加させる必要があることから、「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			R3年度	R4年度	
ファミリー・サポート・センター活動件数	件	→	3,096	3,058	3,998（R6）
ファミリー・サポート・センター援助会員数（両方会員含む）	人	↗	444	413	454（R6）

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部　　福田　公教　准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・地域ぐるみの子育てを推進する際に、新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いていると考えざるを得ない。とりわけ、取組の参考指標においては、全ての項目で目標値を上回ることができなかったが、社会情勢からすると致し方ない数値であると思われる。 ・他方、新型コロナウイルスの影響により取組におけるICT技術の活用や新たな取り組みが芽生えてきたことは、今後の施策の展開に前向きな側面を生み出したのもうかがえる。 ・今後は、ファミリー・サポート・センターの援助会員などに子育て世代以外の世代が地域において、子育ての支え手に回ることができているか、確認していくことも求められる。

施策評価シート

1　施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する
3	対応するSDGs		
4	施策の方向性（後期基本計画より）	すべての児童・生徒の「生きる力」、すなわち「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」と、その基盤となる「非認知能力」の育成を進め、これからの社会を生き抜く資質・能力を育むことを目指します。また、個人の可能性を最大限引き出すため、学校園をはじめ保育所、関係諸団体が連携して就学前から中学校卒業まで一貫した「きめ細やかで質の高い教育」を保障し、「学びを通した信頼される学校づくり」を進めます。	

		部　名	補職名・課名	氏　名
5 評価者等	評価者（部長級）	学校教育部	部　長	青木　次郎
	施策主担当課	学校教育部	学校教育推進課	―
	施策関係課	学務課、教職員課、教育センター		

6 施策内の取組	2-3-1	「確かな学力」の充実
	2-3-2	「豊かな心」の醸成
	2-3-3	「健やかな体」の育成
	2-3-4	学校支援体制の充実

2　令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A　施策の方向性に沿って順調に進行している。 B　施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C　施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D　施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2 評価理由（R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	R4年度末現在の施策の主な課題	
「確かな学力」の充実については、コロナ禍においても児童・生徒が安心して学べる環境づくりや「話し合う活動」等について工夫しながら授業改善を進め、全国学力・学習状況調査結果において、昨年度に引き続き上昇傾向を示しました。 「豊かな心」の醸成については、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用や、実践モデル校における好事例の普及、研修の実施、児童生徒への日常的な言葉かけなどにより非認知能力を育成する取組を進め、茨木っ子アンケートの結果は横ばいから微増となるなど、コロナ禍においても一定の効果がありました。 「健やかな体」の育成については、児童・生徒意識調査において、「運動スポーツが好き」という回答割合が小中学校ともに上昇しており体力向上等への取組の成果と捉えています。 また、小学校給食では生産者等と協議して地元食材の使用に努めたほか、食物アレルギー対応範囲の拡充の課題検討や、誤食事故防止に取り組みました。中学校給食では全員給食開始に向け、PFI手法による給食センターの整備・運営事業者の選定及び契約締結を行うとともに、中学校配膳室の整備をモデル実施するなど計画的に進めました。 学校支援体制の充実については、茨木市不登校児童・生徒支援室において、訪問、通室、体験学習、オンラインの4コースを通して居場所づくりや、フリースクール等との連携を進め、不登校支援に取り組みました。また、業務改善については、自身の出退勤時刻や時間外勤務時間を確認できるシステムへと変更し、教職員の意識を高めることができました。 以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断していますが、茨木っ子力の育成において重要なリアルな体験活動の充実、児童・生徒理解への日常的な取組の継続、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成などに一層取り組む必要があることから総合評価は「B」とします。	課題①	日常より子ども理解に努めるとともに、小中学校ともに、体験活動の充実を図り、茨木っ子力（非認知能力）に育成にむけた取組の充実が必要です。
	課題②	いじめや不登校への未然防止、早期発見、早期解決をすすめ、関係機関との連携を行うとともに学級集団づくりや人間関係づくり等すべての児童生徒にとって学校が安心して過ごせる居場所の確保に努める必要があります。
	課題③	体力向上と合わせて、食育、運動習慣の定着、健康づくりなどの取組を進め、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成を進めることが必要です。
	課題④	「ふれあいルーム」を中核とし、向陽台高等学校をはじめ、近隣の大学、フリースクール、民間団体等との相互連携を充実させていくことが必要です。
	課題⑤	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する

3　施策内の取組の評価

1	取　組	2-3-1	「確かな学力」の充実				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西　学
3	関係課	教育センター					
4	目　標 （後期基本計画より）	小中学校が連携して学力向上にかかる組織的・計画的な取組を推進しており、児童・生徒は学習習慣を身につけ、知識や技能を活用して学習に取り組み、学ぶ喜びを実感しています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
a a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	確かな学力の充実については、コロナ禍においても児童生徒が安心して学べる環境づくりや「話し合う活動」等について工夫しながら授業改善を進め、全国学力・学習状況調査において、小学校では過去3番目、中学校では過去2番目の高さの結果となるなど、昨年度に引き続き上昇傾向を示しました。また、相馬芳枝科学賞については、中学校の参加が増え、作品応募数、表彰式作品展示会への参加者数ともに増加しました。 以上のことから、施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
全国学力・学習状況調査の平均正答率（小学校）	全国を1	↗	1.039	1.042	1以上（R4）
全国学力・学習状況調査の平均正答率（中学校）	全国を1	↗	1.022	1.059	1以上（R4）

1	取　組	2-3-2	「豊かな心」の醸成				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西　学
3	関係課						
4	目　標 （後期基本計画より）	一人ひとりの児童・生徒が基本的な倫理観や規範意識を身につけ、学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを実感し、安心して学ぶことができています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	非認知能力育成については、「キャリアパスポート」や「いま未来手帳」の活用や、実践モデル校における好事例の横展開、研修の実施、児童生徒への日常的な言葉かけなどにより取組を進め、全児童生徒を対象とした茨木っ子アンケートの結果は横ばいから微増となるなど、児童生徒の学びに影響が大きいコロナ禍においても一定の効果がありました。 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、茨木っ子力の育成において重要なリアルな体験活動の創出や充実、児童生徒の理解への日常的な取組の継続などに取り組む必要があることから「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
自分力（小学校）茨木っ子アンケートより	点	↗	7.9	7.9	8.1（R4）
自分力（中学校）茨木っ子アンケートより	点	↗	7.8	8.0	8.1（R4）

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する

1	取　組	2-3-3	「健やかな体」の育成				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	梶西　学
3	関係課	学務課					
4	目　標 （後期基本計画より）	小中学校が連携した体力向上の取組や授業改善、新体力テストの活用を進めたことにより、児童・生徒は、健康への意識が高まり、体力向上の意欲や運動に親しむ機会が増えています。給食では安全安心な地元食材の使用量が向上し、的確なアレルギー対応ができています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	児童生徒意識調査において、「運動スポーツが好き」という回答割合が小中学校ともに上昇しており体力向上等への取組の成果と捉えています。小学校給食では生産者等と協議して地元食材の使用に努めたほか、食物アレルギー対応範囲の拡充の課題検討や、誤食事故防止に取り組みました。中学校給食では全員給食開始に向け、PFI手法による給食センターの整備・運営事業者の選定及び契約締結を行うとともに、中学校配膳室の整備をモデル実施するなど計画的に進めました。以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、自分の「からだ」を大切にできる子どもの育成と元気力向上のための食育や健康づくりなどが必要であることから「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
新体力テスト体力合計点（小・中平均）	全国を1	↗	0.96	0.99	1以上（R4）
児童・生徒意識調査（運動スポーツが好き）	肯定率（%）	↗	82	84	90（R4）
基本とする食物アレルギー対応範囲の拡充	種類	↗	4	4	4（R4）

1	取　組	2-3-4	学校支援体制の充実				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	教育センター	課長名	新川正知
3	関係課	教職員課					
4	目　標 （後期基本計画より）	教職員は、最新の技術や情報をもとに授業改善に取り組んでいます。丁寧な相談活動による状況把握と分析の結果、学校と連携した適切な指導・支援が行われ、相談者の学校生活への不安が軽減されています。さらに、教育委員会による支援や学校の業務改善が進むことで、教員の時間外勤務が減少し、児童・生徒に向き合う時間が確保され、日々の教育活動の充実につながります。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	教職員研修については、支援教育やICT活用など内容を充実し回数を増やしました。相談業務については、相談時間枠の拡充等相談しやすい環境づくりを進め、不登校支援については、茨木市不登校児童・生徒支援室において、訪問、通室、体験学習、オンラインの4コースを通して居場所づくりや、フリースクール等との連携を進めました。業務改善については、自身の出退勤時刻や時間外勤務時間を確認できるシステムへと変更し、教職員の意識を高めることができました。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、児童・生徒、保護者、教職員への支援を充実させる必要があることから「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
教職員1人あたりの研修参加回数	回	↗	1.8	2.3	3（R4）
相談員一人あたりの相談件数 （心理・電話・言語・不登校・発達相談）	件／人	↗	80	90	90（R4）
不登校児童・生徒支援室への入級希望者数	人	↗	76	114	80（R4）

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部　　福田　公教　准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・取組2-3-1「確かな学力」の充実については、参考指標は前年度を上回っており、かつ目標値も上回っており、施策の効果が順調にみられる取組となっており、評価できる。 ・取組2-3-2「豊かな心」の醸成や取組2-3-3「健やかな体」の育成も合わせて、これらの取組の土台は、取組2-3-4学校支援体制の充実に負うところが多いと考えられる。とりわけ、近年課題となっている教員の負担を軽減し、本来業務に時間を割けるようになるかが大きな課題とされているが、システム変更による意識の高まりのみに期待しているような記述となっており、この点への注力が必要となるのではないだろうか。

施策評価シート

1　施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する
3	対応するSDGs		
4	施策の方向性（後期基本計画より）	それぞれの学校において、子どもたちが良好で快適な環境のもとで教育を受けることができる環境を整備します。 また、地域における教育コミュニティづくりが進むとともに、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる環境を整えます。	

		部　名	補職名・課名	氏　名
5 評価者等	評価者（部長級）	教育総務部	部　長	小田佐衣子
	施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	―
	施策関係課	学童保育課、施設課、学校教育推進課、教育センター		

6 施策内の取組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実
	2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進

2　令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A　施策の方向性に沿って順調に進行している。 B　施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C　施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D　施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2 評価理由（R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	R4年度末現在の施策の主な課題	
学校施設の整備については、国の補助金等を効果的に活用し、便所改修、外壁・屋上防水改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図ることができました。 教職員のICT機器の活用については、校務等様々な場面で進んでおります。授業での活用についても、操作研修や好事例の共有、環境整備を行いました。 放課後子ども教室については、代表者連絡会や研究会で情報共有を図り、コロナ禍でも活動が円滑に実施できるようガイドラインの改訂を行い、校区の実態に合わせることで、実施日数が増加しました。 家庭教育関連事業については、引き続きオンラインを活用するなど、コロナ禍においても順調に実施し、参加者数の増に繋がりました。 見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検を実施し、安全確保に努めました。 学童保育については、教育委員会と調整し、場所の確保に努め、一斉受付では待機児童は発生しませんでした。 以上のように概ね順調に推移していますが、教職員のICT機器の活用について、授業におけるICT機器の活用意識を高めていく必要があること、また、学童保育については、夏季休業期間預かり事業で学年拡大を試行実施した際に、指導員確保等に課題があり、今後の方向性を検討する必要があることから「B」評価とします。	課題①	学校施設の整備には多額の経費を要するため、国庫補助金を獲得するとともに経費の平準化を図り、計画的に進める必要があります。また、資材不足、物価高騰等に対する対応が課題となっています。
	課題②	教職員へのICT機器を活用した授業づくり支援や授業力向上の取組を工夫・改善する必要があります。
	課題③	放課後子ども教室については、コロナ禍による中止と再開を繰り返していたことにより、スタッフが不足しており、代表者連絡会等で情報交換を図りながら、新たな人材確保の手法を検討をしていく必要があります。
	課題④	家庭教育関連事業については、家庭教育学級や親学びサポーターのなり手不足などから、将来に向けて新たな実施手法の検討が必要です。
	課題⑤	学童保育の場所の確保は、教室借用や施設設置が困難な学校もあり民間事業者による施設設置促進等が必要です。学年拡大は場所と指導員の確保等の課題が明確になったため今後の方向性を検討する必要があります。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する

3　施策内の取組の評価

1	取　組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	施設課	課長名	浅野　貴士
3	関係課	教育センター					
4	目　標 （後期基本計画より）	学校施設・設備等が、計画的に更新されることにより、利便性や機能性を持つ、快適な教育環境で効果的な児童・生徒の学習が行われています。					

5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	学校施設の整備につきましては、国の補助金等を効果的に活用し、便所改修、外壁・屋上防水改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図ることが出来ました。 教職員のICT機器の活用については、校務等様々な場面で進んでおりますが、授業での活用につきましては、操作研修や好事例の共有、環境整備を行いました。今後も授業での活用意識をさらに高めていきます。 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、授業でのICT機器の活用を高めていく必要があることから「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
2系統目の便所改修工事の完了の率	%	↗	41	55	100（R7）
授業でICT機器を活用する教員の率	%	↗	88	82	90（R4）

1	取　組	2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉﨑　幸司
3	関係課	学童保育課、学校教育推進課					
4	目　標 （後期基本計画より）	学校・家庭・地域が互いに情報共有し、それらが連携して教育コミュニティづくりを進めています。また、子どもたちの安全で安心な居場所づくりや地域での見守り体制が整っています。					

5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
		b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	放課後子ども教室については、コロナ禍で未実施の期間がある中、ガイドラインを改訂し、校区の実態に合わせることで、実施日数の増加に繋がりました。家庭教育関連事業については、コロナ禍においても順調に実施できました。見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と学童通学安全対策協議会による安全点検を実施し、安全確保に努めました。学童保育については、教育委員会と調整し、場所の確保に努め、一斉受付では待機児童は発生しませんでした。以上のように順調に推移していますが、夏季休業期間預かり事業で学年拡大を試行実施した際に、指導員確保等に課題があり、今後の方向性を検討する必要があることから「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
放課後子ども教室延べ実施日数	日	↗	200	1，167	800（R4）
家庭教育関連事業の参加者数	人	↗	1，208	1，506	1，300（R4）
学童保育待機児童数（一斉受付申請分）	人	→	0	0	0（R4）

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部　　福田　公教　准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・評価理由にも指摘されているように、取組2-4-1学校施設の計画的な整備・充実には、多額の経費を必要とするものであることと合わせて、学校施設が地域における重要な社会資本であることから、ユーザーである子ども、地域のニーズを取り込んだ整備が求められる。 ・取組2-4-2学校・家庭・地域の連携の推進については、学童保育の待機児童がなかったことは評価できるが、課題として挙げられている対象の拡大については、早急に対応することが求められる。なお、コロナ禍にあって、放課後子ども教室の実施日数や家庭教育関連事業の参加者数が目標値を上回った点は、大きく評価できる。引き続き、三者の連携を強めて行かれることを期待したい。

施策評価シート

1　施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する
3	対応するSDGs		
4	施策の方向性（後期基本計画より）	全ての青少年が様々な地域活動や体験活動に参加するとともに、適切な支援を受けることにより、心豊かにたくましく成長することができるよう取組を進めます。	

		部　名	補職名・課名	氏　名
5	評価者等	評価者（部長級）	教育総務部	部　長	小田　佐衣子
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	―
		施策関係課	こども政策課		

6	施策内の取組	2-5-1	青少年健全育成の推進
		2-5-2	青少年の体験活動の充実
		2-5-3	若者の自立支援

2　令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A　施策の方向性に沿って順調に進行している。 B　施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C　施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D　施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。

2 評価理由（R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）	R4年度末現在の施策の主な課題	
青少年健全育成の推進については、「ほっとけん！アワード」、「青少年による青少年のためのイベント」、青少年指導者向けの研修等の事業を実施しました。これらの実施により、地域での大人と子どもの顔の見える関係づくり、イベントに参加した子ども・生徒・学生の異年齢交流や自己有用感を感じる機会の提供、青少年指導者の育成を推進できました。 青少年の体験活動の充実については、上中条青少年センター主催事業での子どもセミナーや、青少年野外活動センターでの「少人数・短期間」のキャンプ等の実施により、コロナ禍においても様々な体験活動の機会を提供し、参加者・利用者も増加しました。 ユースプラザでは、子ども・若者を取り巻く環境が複雑・多様化しているため、改めて事業者を選考した結果、「生きていく力」を育む取組が提案されるなど、支援の充実を図りました。 こども会では、加入率が低下傾向にあることから、小学生等を対象に「レクリエーションのつどい」を実施し、加入促進に繋げることができました。また、コロナ禍以前の事業を実施できたことにより、こども会活動の継続につながりました。 若者の自立支援については、ヤングケアラーを早期に発見し適切な支援や見守りにつなげるため、市内の支援者を対象としたヤングケアラー実態調査を実施し、具体的な支援策の検討を行いました。 また、子ども・若者支援地域協議会では、新たに市内高校1校と市内すべての小学校が構成機関として加わり、地域と学校が連携し、様々な課題を抱える児童・生徒をより中長期的に支援することが可能となりました。 以上のことから、コロナ禍でも工夫して事業を推進し、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していますが、地域団体の行事実施数の増加やこども会の活動継続・加入促進への支援策を引き続き講じる必要があるため、「b」評価とします。	課題①	SNS等を起因とするトラブルから青少年を保護するために、最新の情報を青少年の指導者や保護者に向けて、引き続き、周知し啓発する必要があります。
	課題②	体験活動は、子どもたちの成長の過程において大変重要な意義があることから、引き続きその充実に努める必要があります。
	課題③	市こども会育成連絡協議会と連携し、引き続き、こども会活動の継続と加入促進につながる支援策を講じる必要があります。
	課題④	居場所での体験や支援の連続性、関係機関との連携を強化し、早期支援、早期困難解消を図るため、ユースプラザの開所日を拡充する必要があります。
	課題⑤	ヤングケアラー実態調査の結果、小中学校やCSWなどの関係機関との連携や、相談窓口の充実が求められていることから、社会全体で支援する体制の強化を図る必要があります。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する

3　施策内の取組の評価

1	取　組	2-5-1	青少年健全育成の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉﨑　幸司
3	関係課						
4	目　標 （後期基本計画より）	各地域で青少年を対象にした行事等が活発に実施され、地域の方との関わりが増えることにより、地域の子どもを地域で見守り、育てるという市民意識が醸成されています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	補助金交付団体数及び青少年が行事の一部を担当した割合は前年度から増加したほか、青少年向け行事の好事例を表彰する「ほっとけん！アワード」により優良事例の横展開を図るなど、地域での大人と子どもの顔の見える関係づくりを進めました。また、高校生や大学生が小学生向け体験活動を企画する「青少年による青少年のためのイベント」により異年齢交流や自己有用感向上を図りました。さらに、青少年の育成者を対象に、青少年との関わり方やスマホ・SNSトラブルを学ぶ研修を実施しました。以上のことからコロナ禍でも工夫し事業を推進しましたが、地域団体の行事実施数の増加を図る必要があるため「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数	団体	↗	51	55	80（R4）
青少年が行事の一部を担当した割合	%	→	74	77	75（R4）

1	取　組	2-5-2	青少年の体験活動の充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉﨑　幸司
3	関係課	こども政策課					
4	目　標 （後期基本計画より）	青少年の活動拠点である上中条青少年センターや青少年野外活動センターのほか、ユースプラザなどでの体験活動を通して自尊感情や生きる力を高め、自分の将来に対して夢や希望を持つことができるような集団活動が活発に展開しています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
b a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	上中条青少年センター主催事業では、様々な体験活動の機会を提供しました。青少年野外活動センターでは、様々な体験活動を展開することで、利用者の増加につながりました。ユースプラザでは、子ども・若者を取り巻く環境が複雑・多様化しているため、改めて事業者を選考した結果「生きていく力」を育む取組が提案されるなど、支援の充実を図りました。こども会では、コロナ禍以前の事業を実施できたほか、加入促進を図るため小学生等を対象に「レクリエーションのつどい」を実施し、加入に繋がりました。以上のことから、コロナ禍でも工夫し事業を実施しましたが、こども会加入率が低下したため、活動の継続と加入促進への支援策を講じる必要があるため、「b」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度	実績値 R4年度	目標値（年度）
上中条青少年センター主催事業参加者数	人	↗	855	871	900（R4）
こども会加入率	%	→	26	22	26（R4）
青少年野外活動センター年間利用人数	人	↗	4,859	6,816	6,000（R4）

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施　策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する

1	取　組	2-5-3	若者の自立支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井芳樹
3	関係課						
4	目　標 （後期基本計画より）	支援が必要な時にどこに相談すればよいか、様々な支援者・事業者・市民が知っています。 それぞれの状況に応じた支援を受け、自立に向けてステップアップしています。 相談者・支援者ともに負担の少ない機関連携が行われ、若者の自立に向けた切れ目のない支援が実現しています。					

5　R4年度末現在の取組の現状

取組の評価	評価理由（R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）
a a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ	家事や家族のケア等を日常的に行っていることにより、本来社会が守るべき子どもの権利が守られていないヤングケアラーを早期に発見し適切な支援や見守りにつなげるため、市内の支援者を対象としたヤングケアラー実態調査を実施し、具体的な支援策の検討を行いました。また、子ども・若者支援地域協議会では、新たに市内高等学校（1校）と市内すべての小学校が構成機関として加わったことで、様々な課題を抱える児童・生徒を地域と学校が連携し、より中長期的な支援が可能となりました。以上のことから、施策の方向性に沿って順調に推移しているため「a」評価とします。

参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値（年度）
			R3年度	R4年度	
スモールステップの段階（自立度）アップ率《改善率》	%	↗	97	98	95（R6）

4　学識経験者の意見

第三者による施策評価（外部評価）として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学人間健康学部　　福田　公教　准教授
2	意見等	・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、総合評価「B」は妥当であると考える。 ・全ての青少年が様々な地域活動や体験活動に参加できているのか、イベントや研修が行なわれているが、全ての青少年のニーズを掘り起こし、それを満たしていくのは容易ではない。そのようななか、ヤングケアラーについての実態調査に基づいて支援策の検討を行なったのは評価できる。今後ヤングケアラーの支援は、単独部署や施策で完結するものではないため、結果を共有するとともに具体の支援につなげて欲しい。 ・コロナ禍であっても参考指標が伸びたものがある一方で、そもそも横ばいをめざしていたこども会については、加入率が下がってしまっている。子どもにとって、身近な地域の団体であるが、その背景や求められていることについての調査や検討が必要となっているのではないだろうか。